

湘南の由来とエリアを探る
その10
【特別号】

中国「湘南寺」訪問記

吉野好輝

筆者は茅ヶ崎市在住の中国語通訳で、NPO 湘南遺産プロジェクトに賛助会員として参加しています。2017年8月末に、中国南部を旅行した際に湘南寺を訪問しましたので、以下に報告いたします。

10-1 Baidu (百度) による湘南寺の紹介



図1 筆者が訪問した中国の「湘南寺」標札

出発前にまず、インターネットで中国語の湘南を調べてみました。そして、中国語ウェブサイト Baidu で「湘南寺」の項目を見つけました。

<https://baike.baidu.com/item/湘南寺>

■以下、筆者による翻訳です。原文は、補注の(注1)を参照してください。

南岳衡山湘南寺は周囲を松や杉に覆われ、風景が美しく、又の名を「松杉叢林」と呼ばれる。唐代に建てられ「南岳志」の記載によると、かつては天然和尚がこの寺の住職で、香火が絶えなかった。

そののちに寺院は荒廃し、明嘉靖23年(1544年)に再建された。現存する寺院は石壁鉄瓦で、1935年に当寺住職の醒悟により再建された。位置する場所は視界が広がり、寺院の前にある石台から湘江を見渡すことができ、見下ろす峰々

は螺鈿のようであり、晴れやかな気持ちにさせられる。明朝の宰相である嚴嵩が南岳に来て、当寺を参観した際には、「湘南寺」という詩を作り讀んで曰く：

山腹に遠く聞きおよび深き小道の鐘、石堂はツタカズラに覆われ青松を護る。

草堂に客を招き僧の茗茶をふるまってくれた、ここは雲中のいくつ目の峰だろうか。



図2 筆者が訪問した中国の「湘南寺」全景

寺の右側には文殊洞があり、洞窟の高さは2mほど。洞窟内には数丈四方(訳者注:1丈は3.3m)の空間があり、中央に巨石の平台があり、文殊菩薩を祀っていた。文殊洞の300m上方には、南岳で有名な貫道泉がある。泉の水は岩の隙間からにじみ出て、とりわけ清らかな水である。泉の上の石壁には対聯と詩句など多くの場所に刻まれている。近くには大悲洞、隠松岩などの古跡がある。

(翻訳は以上)

この Baidu には2015年11月24日の「鳳凰湖南」の記事へのリンク

http://hunan.ifeng.com/hunanspecial/nanyuehengshan/detail_2015_11/24/4589424_0.shtml

があり、そちらの文章が Baidu の文章に類似していました。そして、「鳳凰湖南」には、その文章ソースが「南岳旅遊網」であると明示されていましたが、残念ながら「南岳旅遊網」の原文を見つけることができませんでした。

筆者が想像するに、現代の記者が「南岳志」から引用し作成した文章だと思われるのですが、その出典と証拠は見つかりませんでした。

後日、南岳志を調べた結果については、下記の10-6南岳志にまとめます。

10-2 湘南寺の位置

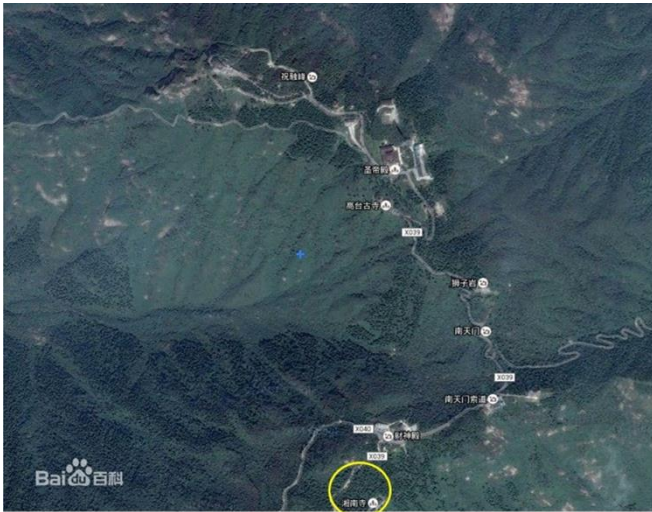


図3 南岳衡山湘南寺（写真下方の円内）

Baidu の記述で、「湘南寺」が中国湖南省にあることはわかりましたが、Google マップで探すと、神奈川県相模原市の「湘南寺」がヒットします。

そこで「湖南省 湘南寺」と入力すると、

<https://www.google.co.jp/maps/place/Xiangnansi/@27.2830231,112.6898628,15z/data=!4m5!3m4!1s0x34207738bccc4a51:0x60cd8d54500efb7918m2!3d27.2830183!4d112.6986175?dcr=0>

にありそうだということがわかりました。ただしGoogle マップの情報は100%信頼できるかわかりませんので、より中国情報に近いであろう Baidu マップなども利用しました。そうして「湘南寺」は湖南省南部の聖山である「南岳衡山」の中にあることが分かってきました。

「南岳衡山」とは、中国五大名山「五岳」の一つです。

Baidu による紹介

<https://baike.baidu.com/item/五岳/5666>

をまとめると、

五岳とは、中国の民間信仰が道教に受け継がれた考え方の中で、崇拝される5つの山である。

五岳はそれぞれ、

東岳泰山(dōng yuè tài shān) @山東省

南岳衡山(nán yuè héng shān) @湖南省

西岳華山(xī yuè huá shān) @陝西省

北岳恒山(běi yuè héng shān) @山西省

中岳嵩山(zhōng yuè sōng shān) @河南省

である。

泰山は孔子のふるさとである山東省にあるので、日本人にも馴染みがあるかもしれません。

そして、五岳は道教の考え方から来ているようですが、その南岳衡山の中にある湘南寺は仏教寺院です。日本も江戸時代までは、神道と仏教は明確に分けられておらず、現在も多少なにかれ神道の多神教性、アニミズム性が残されていますが、道教もこれに似た状況にあります。ただし、中国共産党統治下で、共産党は宗教を警戒し、宗教組織を管理下に置

いてきましたので、いまでは道教であれ仏教であれ、いかなる人の組織も全て中国共産党の強い管理下にあります。

そのなかで南岳衡山は、道教、仏教の聖地である、と簡単に紹介されることが多いようです。道教では、南岳衡山を火神「祝融」として祀っています。南岳衡山の頂上には「祝融峰」があります。

いずれにせよ、「湘南寺」は南岳衡山の中にあることが分かったので、上海から鉄道で行ってみることにしました。

10-3 行程



図4 湘南寺の案内板

航空券購入とホテル予約は日本からでもインターネットを通じて簡単に行えますが、中国国内の鉄道チケットを買うのは非常に困難です。それは海外のクレジットカードや、パスポートでの購入ができないからです。

ほぼ唯一の解決策は Ctrip (携程) というインターネットサイトで、ここだけは海外のクレジットカードで決済することができます。手数料は、駅窓口で直接チケットを買うのに比べると、それなりに高いですが、旅行会社の実店舗に頼むよりは安いと考えられます。そして、私が訪問した時期は、学生が夏休みを終えて都市部に帰省する時でしたので、事前に鉄道予約する必要性が強くありました。

決済した鉄道チケットには購入番号が与えられるので、駅の窓口でその番号を見せて、チケットと交換することになります。

10-4 映像

上海から鉄道などで南岳衡山に向かい、高速鉄道で離れるまでを映像で撮りまして、Youtube にアップしましたので、ご紹介します。

駅でのチケット受領風景

<https://www.youtube.com/watch?v=xunalmg-OTw>

鉄道の寝台車内（硬臥）

https://www.youtube.com/watch?v=HoSOWU_LoJ8

衡陽駅から白タク1 市場

<https://www.youtube.com/watch?v=5LdlIS6o6tc>

衡陽駅から白タク2 ロードサイドお香店

https://www.youtube.com/watch?v=24YeleO_1_Q

衡山の麓の青年宿舎。朝6時ごろでしたが、宿舎のお母さんの人が、すでに起きていて、荷物を預かってくれ、また南岳衡山への行き方を教えてくれました。湘南寺はご存知ありませんでしたが、地図と一緒に探してくれました。

<https://www.youtube.com/watch?v=qOXInfJPm8I>

衡山中腹へのバスターミナル。

<https://www.youtube.com/watch?v=mrkBOFvGMU4>

バスの車窓から。

<https://www.youtube.com/watch?v=i4a1eCObin0>

雲に煙る湘南寺。

<https://www.youtube.com/watch?v=-SuSUcZrBQ8>

湘南寺を紹介する掲示板。

<https://www.youtube.com/watch?v=4UDCWK3RuLE&t=117s>

観音像。

<https://www.youtube.com/watch?v=wg5wPmAPLjA>



図5 湘南寺における焼香受付

湘南寺の建物に入ったところに、尼僧と、普通の格好の女性が座っていて、線香の受付をしていました。こちらで寄付

をすると、線香の入った赤い紙包みをくれて、そこに祈願したい内容を書いて、焼香を行います。

私も、湘南遺産 NPO と書いて、色々と祈願しておきました。

尼僧と女性に聞くと、「湘南寺の湘は、湖南省の湘かな。湘江もあるしね。」などと言い、私が「私は日本の湘南から来ました。」と言うと、日本に湘南があるとは初耳だったようで、驚いていました。

青年宿舎一階の食堂。

日本のアニメが好きで人たちが作った青年宿舎でしたので、「秋葉原に部屋が欲しい」などと冗談を言われました。

<https://youtu.be/l1akhGBFD5E>

高速鉄道（新幹線）発着駅である衡山西駅の外観。

<https://www.youtube.com/watch?v=cNtYsBiRIEQ>

衡山西駅の鉄道ホームと入線する高速鉄道。

映像後半に映る、制服の警察官と話す男性2名は私服警官のようでした。

<https://www.youtube.com/watch?v=hVxWFVWWB54>

10-5 中国の「湘南寺」という名称の考察

和田氏ほか各位により紹介されていますが、日本で、現在の湘南地域をなぜ「湘南」と呼んだかについては様々な説があります。このうち、大磯の嶋立庵の碑にあるように、かつての日本人が中国の「湘」地域に憧れの意識をもって、その「湘」に南をつけたという説も有力です。

私はまず、現在の中国人がどのように「湘」という言葉を見ているかをご紹介したいと思います。

「湘」という漢字の語源は、現在の湖南省を流れる「湘江」です。湘江は広西省を源流とし湖南省の洞庭湖に注ぎます。洞庭湖は長江にもつながっており、洞庭湖の水は長江を経て、遠く上海まで流れていきます。長江とはイコール揚子江であり、日本人には揚子江の方が馴染み深いかもしれません。

また、湘江の支流に瀟江という川があり、「瀟湘八景」として中国山水画の主要テーマとなっています。昔はほとんどの日本人は中国大陸に行くことはできず、とりわけ江戸時代は鎖国してしまっていたから、実際に行くことは不可能でした。しかしながら、文献や、とりわけこの山水画を通じて、大陸に憧れの気持ちを持っていたと推測できます。

瀟江および湘江が交わるあたりから洞庭湖の沿岸の、風光明媚な8ヶ所が選ばれて「瀟湘八景」となっていますが、この地域はかつて春秋戦国時代の楚国の中心地で、川と湖に恵まれています。

wikipedia によると、

<https://ja.wikipedia.org/wiki/瀟湘八景>

8ヶ所はいずれも現在の湖南省内に位置しています。

瀟湘夜雨 [しょうしょう やう] : 永州市蘋島・瀟湘亭。

瀟湘の上にももの寂しく降る夜の雨の風景。

平沙落雁 [へいさらくがん] : 衡陽市回雁峰。秋の雁が鍵に

なって干潟に舞い降りてくる風景。

煙寺晚鐘 [えんじばんしょう] : 衡山県清涼寺。夕霧に煙る遠くの寺より届く鐘の音を聞きながら迎える夜。

山市晴嵐 [さんしせいらん] : 湘潭市昭山。山里が山霞に煙って見える風景。

江天暮雪 [こうてんぼせつ] : 長沙市橘子洲。日暮れの河の上に舞い降る雪の風景。

漁村夕照 [ぎょそんせきしょう] : 桃源県武陵溪。夕焼けに染まるうら寂しい漁村の風景。

洞庭秋月 [どうていしゅうげつ] : 岳陽市岳陽楼。洞庭湖の上にさえ渡る秋の月。

遠浦帰帆 [えんぽきはん] : 湘陰県県城・湘江沿岸。帆かけ舟が夕暮れどきに遠方より戻ってくる風景の8ヶ所とされています。

湘江そのものは、湖南省を南西から北東に向かって流れていますが、注意しなければならないのは、現在の中国では「湖南省」のことを「湘」と表記し、理解されていることです。たとえば自動車の湖南省ナンバーには「湘」と一文字だけ書かれます。

しかし湘南寺が創建された唐代の行政区分では、湘南寺のある衡山は「江南西道」のなかの「潭州」に位置したと考えられ、湖南省の「湘」ではなく、湘江に影響された名称であると考えられます。

現在では、湘南寺は湘江の南側ではなく北側にあるのですが、広い意味での湘江エリアの南部に位置することは間違いありません。可能性としては、湘江の流れが移動した可能性もありますが、それは確認できませんでした。

10-6 南岳志 (2018年3月7日に加筆)



図6 「南岳志」の背表紙

帰国後に、筆者の同級生である麻布中学・高校の漢文教諭の鈴木弘一郎君に協力してもらい、「南岳志」を調べました。南岳志はかなりマイナーな「地方志」にあたり、日本語での紹介は殆ど見つけれませんでした。

南岳志の最もポピュラーなものは、清の乾隆18年に刊行された版ですが、漢籍には複数の版があるものもあるのだそうです。しかし、湘南寺が建立されたという唐代に出版された

ものは見つかりませんでした。

まず、「中国哲学書電子化計画」というプロジェクトが中国大陸にあり、インターネット検索で、南岳志の原文を簡単に見つけることができます。その中に「湘南」「湘南寺」についての記載があることが分かりました。

但し、電子化計画では現状、漢籍を電子スキャンでテキスト化しているため、テキストデータの大半は文字化けしています。結局、ある程度の当たりをつけて、あとは肉眼で原本を見るしか無いようです。

国会図書館に清乾隆18刊の原本があり、これを肉眼で確認しました。

この中に、極めて簡単に「湘南寺」の記載箇所があります。その前後のみ抜粋します。

(以下、鈴木弘一郎君による現代語訳の書き起こし)

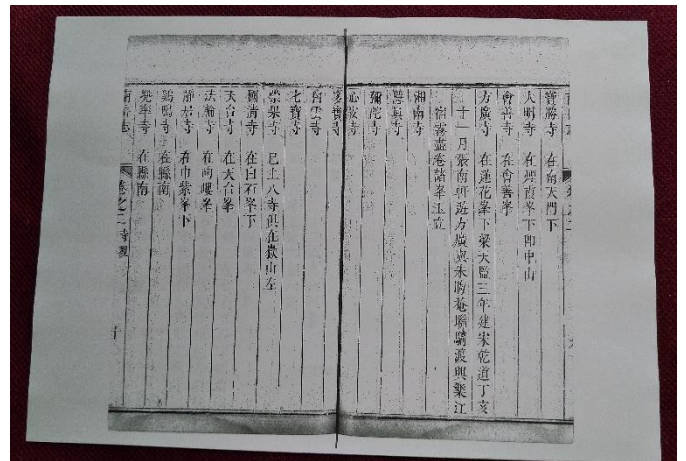


図7 「湘南寺」等が記されている「南岳志」

方廣寺は蓮花峯下にあり、梁の天監3年に建てらる。宋の乾道丁亥11月に張南軒、方広に遊び、朱晦菴と騎をつらねて興樂江を渡る。宿霧ことごとく巻きて諸峯玉立す。

- 湘南寺
- 隱真寺
- 彌陀寺
- 心安寺
- 多寶寺
- 白雲寺
- 七寶寺
- 崇果寺

以上の八寺はともに岳山の左にあり。(書き起こし、以上)

これ以上詳細な紹介については、まだ見つけれられていません。以上です。

吉野好輝

■補注

(注1) 2017年から2018年初めまで、百度に記載されていた「湘南寺」紹介文

南岳衡山湘南寺因其四周松杉掩映，风景宜人，又称为“松杉丛林”。始建于唐代，据《南岳志》记载：天然和尚曾为该寺住持，香火旺盛。

后来寺院荒废，明嘉靖二十三年（1544年）重修。现存寺院为石墙铁瓦，是1935年该寺住持醒悟重建。此处视野开阔，站在寺院前的石台上，远眺湘江如练，下瞰群峰如螺，令人心旷神怡。明朝宰相严嵩来南岳参观此寺时，曾作《湘南寺》诗一首赞道：

半岭遥闻深径钟，石堂萝薜护青松。

草堂邀客供僧茗，此是云中第几峰。

寺右有文殊洞，洞高约2米，洞内有数丈见方的空间，洞中央有一巨石平台，曾供奉文殊菩萨。在文殊洞上面300米的地方，便是南岳有名的贯道泉。泉水从石缝里渗透出来，清冽异常，泉上石壁刻着对联和诗句等多处石刻。附近有大悲洞、隐松岩等古迹。

南岳衡山湘南寺

寺院的东边有石板游路可直达皇帝岩与南天门，此石板游路颇具特色，若有时间不妨走走。

■図の出典

図2：南岳衡山湘南寺

<https://baike.baidu.com/item/湘南寺>